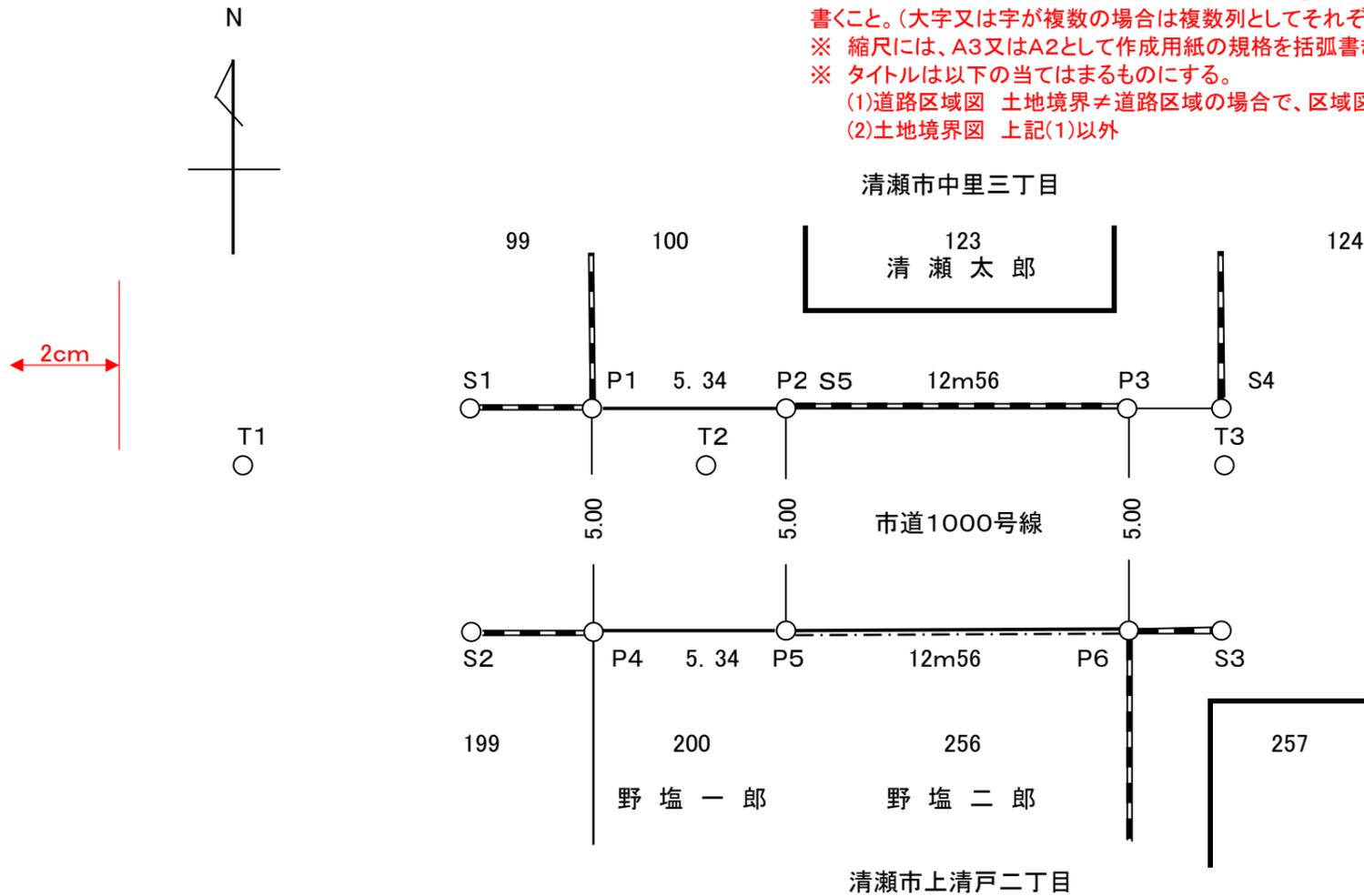


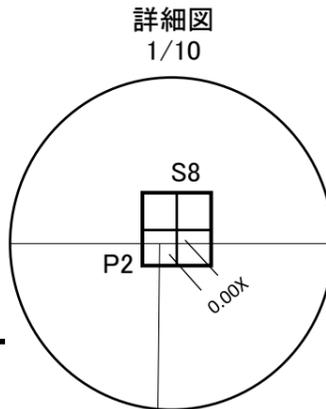
(境界確定図記入例)

- (注)
 ※ 用紙は日本工業規格A列2番又は3番とし、普通紙で品種は上質紙と
 ※ 縮尺は、原則として1/250とする。
 ※ 境界確定を伴う証明は、確定図にて証明可能です。
 ※ 別途道路区域図を作成いただく必要はありません。



土地境界図 ※または道路区域図		
土地の 所在・地番	清瀬市 丁目 番 ほか	縮尺(A3) 1/250

- (注)
 ※ 合意した土地所在地番が複数ある場合は「ほか」を忘れずに書くこと。(大字又は字が複数の場合は複数列としてそれぞれ記載する)
 ※ 縮尺には、A3又はA2として作成用紙の規格を括弧書きする。
 ※ タイトルは以下の当てはまるものにする。
 (1)道路区域図 土地境界≠道路区域の場合で、区域図を作成するとき
 (2)土地境界図 上記(1)以外



符号	X	Y	備考
P1	00.000	00.000	既設市石標 <input checked="" type="checkbox"/>
P2	00.000	00.000	計算点
P3	00.000	00.000	新設市金属標 <input checked="" type="checkbox"/>
P4	00.000	00.000	既設市石標 <input checked="" type="checkbox"/>
P5	00.000	00.000	既設鉄
P6	00.000	00.000	計算点
S1	00.000	00.000	既設民石標 <input type="checkbox"/>
S2	00.000	00.000	現況L形溝曲がり
S3	00.000	00.000	既設鉄
S4	00.000	00.000	既設民石標 <input type="checkbox"/>
S5	00.000	00.000	既設民石標 <input type="checkbox"/>
T1	00.000	00.000	新設鉄
T2	00.000	00.000	新設鉄
T3	00.000	00.000	既設鉄
10A30	00.000	00.000	金属標・(測地成果2000)
2A100	00.000	00.000	鉄鉄(測地成果2000)

- (注)
 ※ 石標、金属標の形状は図面記載方向を基準に現形を記載する。(北上ではない)
 ※ 石標、金属標の既設、新設の別を記載する。
 ※ 多角点の世界測地系等(測地成果2000又は2010)を使用した場合はその旨記載する。

- (注)
 ※ 測量年月日は、境界標設置日等を記載すること。
 ※ 確定年月日の算用数字は記載しない。
 ※ 原則上下左右2cm以上空ける。

- (注)
 ※ 「承諾書(確認書)」の受領者は地番の下に氏名を記載する。
 ※ 文字等の大きさは縦横2.0mm以上で、P点間は太さ0.3mmの黒線とする。
 ※ 辺長は原則として民地側に記載し、P点間距離は少数点以下3位切捨てとし、「〇〇m〇〇」と記載する。
 ※ 過去の土地境界図等において、既に確定している辺長は「〇〇. 〇〇」と記載する。
 ※ 境界点や引照点を図面上で分かりづらい場合、詳細図を記載する。
 ※ 多角点(機械点)は3点以上記載のこと。
 ※ 適宜、周辺の状況が分かるように付近の地形、構造物等を記載する。

凡例	○ Pn	境界点
	実形または○Sn	引照点
	○ Tn	多角点
例	〇〇m〇〇	境界辺長

約10cm

約5cm

土地境界図 整理番号	清瀬	
※または道路区域図 整理番号		
作成者	清瀬市中里五丁目842番地 資格名 登録第〇〇〇〇号	
測量年月日	令和 年 月 日	職印 または 印
確定年月日	令和 年 月 日	

空欄